

High Line Wakabayashi
はいらいん若林

みんなでここさ 入らいん!

若林区まちづくり協議会会報 2017.3.1 Vol.20



▲地下鉄東西線薬師堂駅周辺

薬師堂の境内が毎月八日の手づくり市で賑わっています。この催しは、薬師如来の縁日の八日にちなんで、平成20年11月から「お薬師さんの手づくり市」として始まりました。趣味を生かして作った小物や地場産品等々、様々な露店が立ち並び、広い境内は大勢の買物客であふれ、売り手と買い手の会話が弾む、触れ合いの場になっています。主催者の一人である佐藤正記さんは、抽選が必要なほどに店が増えたことを心から喜んでいる様子でした。

薬師堂駅の東側に位置する白萩公園と、その道路脇のオブジェも見逃せません。公園は、地域の活性化を目指しています。

会報の愛称「はいらいん若林」とは

山台弁の「入らいん(お入りください)」に英語のhigh(ハイ・高い)とline(ライン・路線、進路などの意)とをかきあわせた造語です。温かさより高いレベルをめざそうという気持ちが込められています。

薬師堂駅から西に少し進むと、右手に薬師堂の仁王門が見えてきます。入母屋造りの茅葺き屋根や、運慶の作と言われる内部の仁王像が、まぎれなく古く感じさせます。そして、門をくぐると、目の前に広がるのは、木々に囲まれた境内の風格あるたたずまいと、往時を伝える指定文化財の数々。陸奥国分寺薬師堂周辺は、歴史的情緒あふれる、市内屈指の史跡エリアなのです。陸奥国分寺は、奈良時代に聖武天皇の発願により、国分尼寺と共に全国に建てられた国分寺の一つで、木ノ下に広大な寺域を有し、寺僧三千を超えたとされる日本最北の大寺院でした。その後、源頼朝の奥州征伐で焼失したものの、後に伊達政宗によって再建され、薬師堂、仁王門、

千余年の歴史を偲ぶ 史跡エリア

鐘楼などが現在に姿を残しています。また、東側の白山神社や、西側の木ノ下公園内にある准胝観音堂も政宗の時代のもので、傍らに建立された芭蕉の句碑も見所の一つです。春の桜、秋の紅葉も、十二分に堪能できる絶景スポットです。



▲仁王門

薬師堂と周辺の楽しみどころ

薬師堂界隈の今昔

かつて、薬師堂のすぐ隣には聖和学園高校があり、若いエネルギーに満ちあふれていました。平成15年の春に、近くの敷地に移転してからは、一角はひっそりとした空地になっていました。現在、史跡陸奥国分寺跡管理・休息施設(仮)の新築工事が始まっています。やがてそこに新しい憩いの場が目に見える様子、待ち遠しい限りです。

一方、今も昔も変わらずに脈々と受け継がれ、地域に根づいているのが、陸奥国分寺の年中行事です。中でも、1月14日のどんと会・裸詣り、2月11日の柴燈大護摩・火渡り修行は、大勢の参拝者でにぎわい、区民の心よりどころを物語ります。

薬師堂界隈

地下鉄東西線開業で魅力再発見

若林区探訪 その七



活動を続けて30余年 遊びの舞台は薬師堂境内の原っぱ!

「どんぐりの会」

- 活動は 毎週金曜日 (長期お休みあります)
どこで? 薬師堂敷地内の原っぱ (雨天時、冬期は室内です)
なんじ? 10:00~12:00
かいひは? 入会金200円 月350円

0歳~未就園の子どもとママ主催の自主育児サークルです。毎回、わらべうたや季節を味わう遊びをして楽しんでいます。野外でのびのびと……気持ちいいですよ。

今、子どもたちが危ない!

若林区は、農業地と住宅地そして昔からの商店街で形成され、子どもたちの生活も、比較的のんびりしていると思われてきました。しかし、世の中の進歩に合わせて都市的

昔は、家族・友達・先生などが互いの問題点を話しあって対応してきました。しかし、現在はどこの家庭でも、マス・メディアと言われる全国同一の情報媒体により、大きな影響が与えられる状況になっていると思います。その結果、テレビやスマートフォン、パソコン、ゲーム機などが情報の収集・伝達の主流になり、人と人のコミュニケーションが薄くなってきています。子育て中にゲーム機などのプレイ時間が多くなると、やがて「脳の慢性疲労」を引き起こし、心の病だけでなく、反社会的な事件も起こしかねないと言われています。また、コミュニケーション力の育成が弱くなり、社会生活に支障を及ぼしてき

若林区においても、昔は普段にされていた地域のつながりが薄まってきています。子どもたちの悩みを、地域の大人や親が解決してきたこの役割を、若林区の大人として親として、再認識をし、地域の活動として取り組んでいくことが大切だと思っています。(菅井 記)

若林区まちづくり協議会

事務局
若林区役所まちづくり推進課内
〒984-8601 若林区保寿院前丁3-1
TEL 282-1111

会報プロジェクトメンバー

リーダー 勝又久雄
西條芳郎
菅井てるみ
地よし
志子田喜恵子

編集後記

開業1周年を迎えた地下鉄東西線。通勤・通学する乗客で賑わう光景を見ると、東西線が日常生活に馴染んできたのを実感します。沿線はまだ発展する可能性を秘めており、10年後の若林区の姿が楽しみです。まちづくり協議会でも、地域の人から愛され、また、区外の人に興味を持ってもらえる若林区を目指して各種事業に取り組んでおります。今後とも皆さまのご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。(まちづくり協議会事務局 千葉 記)

地域に根づいて

『東六郷・東部かあちゃん'ずカフェ』開催される

10月30日(日)、晴天の下、東日本大震災で被災した東六郷小学校の校庭と校舎を活用したイベントが開催されました。校庭には『焼き芋コーナー』、『山羊のゆずちゃんと遊ぶコーナー』、校舎には『ずんだ餅・芋煮をごちそうするコーナー』、『東六郷の思い出の映像コーナー』、『キャンドルづくりコーナー』など、子どもから高齢者まで楽しめる仕掛けがあり、多くの住民が笑顔で参加していました。



代表の庄子百合子さんと事務局の秋谷智明さんに話を聞いたところ、平成25年、六郷東部地区の女性の方々が被災後に悩みを多く持っており、みんなで話し合うことにより地域活性化につながっていくのではないかと、2ヶ月に1回、10人~12人程度の女性限定で『かあちゃん'ずサミット』を開催したのが始まりだそうです。平成28年4月に『東六郷・東部かあちゃん'ず』が結成され、現在に至っています。中心メンバーは10人位で、集まりには男性も参加することもあります。地域づくりをすすめるために今回大きなイベントを行いました。これからも頑張って継続していきたいと語ってくれました。

(西條 記)



若林区まちづくり協議会 会長 早坂 隆

平成28年5月の総会におきまして、日下覚実前会長の後を引き継ぎ、会長職をお受けすることとなりました。

当協議会では、住みよ魅力あるまち若林区の実現を目指し、行政との協働によるまちづくりを推進しております。活動の詳細はこの「会報はいらいん」の記事に譲るとして、東日本大震災で被災した沿岸部を擁する若林区としては、特に、被災地を含む区全体の発展とにぎわいの創出が復興に不可欠と考えます。

この目標に向かって、微力ではございますが会長として精いっぱい努めて参りますので、区民の皆さまのご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成28年度

「第28回若林区民ふるさとまつり」

主催 若林区まちづくり協議会

「第28回若林区民ふるさとまつり」は、晴天にも恵まれ大勢のお客様にお越しいただき、大いに盛り上がりました。恒例のザリガニ釣りや学校じまん、ステージ発表に消防はしご車や白バイ、ヘリコプターの展示、お神輿にすずめ踊りやハシゴ乗り等、各催しも大いに盛り上がり、お客様に楽しんでいただけたと思います。また、近隣の小中学校をはじめ、若林区内の多数の学校の参加と、出店者やフリーマーケット参加者の活気に、若林区民の皆様に支えられた手作り感いっぱいの「ふるさとまつり」であると改めて実感しました。

今回、若林区中央市民センター別棟建替え工事のため、昨年までの「ふるさとまつり」のレイアウトを大きく変更しました。それに伴い、出店関係の場所や搬出入の変更、安全対策など、今までにない取り組みになりましたが、事故もなくスムーズに運営できたことは、関係者の皆様のご協力のお蔭です。実行委員会を代表し、来場されたお客様、そして関係された皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

実行委員長 佐藤 康浩

おかげさまで当日は晴天に恵まれ、昨年同様たくさんの人出となりました。ステージ発表、作品展、伝統工芸、フリーマーケット等々、各ブースは家族連れでにぎわいました。特に白バイや、ヘリコプター、はしご車などの搭乗体験は大人気で、参加した子どもたちは皆大満足のようでした。

一昨年から始まった「学校じまん」コーナーや昨年からのおみこしに続き、今年は地域消防団のはしご乗りが行われて喝采を浴びました。各商店やそれぞれの団体の出店等では、閉会式の前に商品が売り切れたところが多数見受けられました。

(勝又 記)



▲ステージ「アルカス」

ふるさとまつりでは、児童生徒健全育成ボランティア「アルカス」に参加している中学生が、工夫を凝らしたクイズや人形劇、ゴミ拾い、自転車の2ロックの呼びかけなどを行いました。また、特設ステージでは、防犯ソングのパフォーマンスを披露し、会場を大いに盛り上げました。

アルカスは、将来地域で活躍してもらいたいとの願いで創設されました。ふるさとまつりでの活躍が、未来へつなげる大きな糧となることと思います。ご協力ありがとうございました。

南小泉中学校地域支援本部
スーパーバイザー 相澤 雅子



▲お神輿



▲地域消防団のはしご乗り

若林区の魅力発信！ 「わくわくドキドキ!! 5感で楽しむ若林」 が開催されました

実行委員会では、若林区の魅力を見て、聞いて、5感で楽しむイベントを企画・実施しています。平成28年度は、昨年度に引き続き、復興の象徴として、被災農地で採れた稲わらを使用した「わらアート」を制作。「空想動物園2016」のタイトルで巨大恐竜4体を展示し、好評を博しました。(9月17日～11月27日、仙台市農業園芸センター)

また、区内の見どころを訪ねる「まち歩き」を合計6回開催。区内はもとより区外在住の方にも多数ご参加いただき、若林区の魅力発信につながることができました。

「わらアート」オープニング

昨年9月17日、震災からの復興を思わせるような黄金色に染まる田園の中を、わくわくドキドキしながら、仙台市農業園芸センターに向かいました。10時、わらアート「わくわくドキドキ!! 5感で楽しむ若林“空想動物園2016”」のオープニングイベントの開始です。当日は曇天でしたが、大勢の参加者で会場は賑わい、わらアートやゲストのパフォーマンスを楽しんでいました。

まず中に入ると、ミニティラノサウルスがお出迎え、旧石器人もうろうろしていて、一瞬タイムスリップしたかのようでした。すずめ踊りや創作和太鼓に元気をもらい、地元の野菜や餅など、おいしいものをほおばりながら広場へ向かうと、待っていたのは4体の見事な巨大わらアートです。これらは、震災後に若林区で収穫された稲わらで作ったオブジェで、復興のシンボルとも言えるものです。今にも動き出しそうな迫力で、触れて楽しむこともでき、子どもたちには大人気。大崎からきた兄妹は、ティラノサウルスの口の中に入って楽しそうに遊んでいました。午後は伊達武将隊と旧石器人が見ごたえのあるパフォーマンスを披露し、楽しいひとときを過ごしました。

若林区の田園の環境を活用したわらアートを楽しんでいたことで、区内の住民のみならず、市民相互の交流が広がっていくことを心から願った一日でした。(菅井・引地 記)



まち歩き「復興若林」コース

昨年10月2日、まち歩き「復興若林」コースに参加してきました。9時30分荒井駅集合。実行委員長の西條芳郎さんのオープニングの挨拶からスタートし、メモリアル館、ジオラマの見学では、八巻寿文館長の説明を受けました。その後、バスに乗り込み、総勢40名で出発しました。ガイドは「NPO法人冒険あそび場・せんだい・みやぎネットワーク」の米倉正子さん、根本暁生さんです。

東日本大震災で被災した荒浜小学校を車窓から眺めながら祈りの塔へ。私が七郷中学校で机を並べた仲間の名前もありました。

冒険広場があったところでは、一番高い避難の丘に登ってみました。震災前に来たときは、目の前が松林で、海があるのに気づかないほどだったのに、すっかり太平洋が見渡せます。冒険広場は、平成30年4月の再開を目指し、遊び場作りを通しての地域の復興を思い描いています。

井土地区には避難タワー、東六郷小の隣地には避難ビルを造っています。東六郷小の生徒も8名になり、平成29年4月には六郷小学校と統合します。

三本塚集会所では、町内会会長の小野吉信さんが、震災時の様子をお話されました。「防風林がなくなって初めて海がこんなに近かったと実感しました。現在は国による圃場整備が行われており、7.2mの堤防を造るので海が見えなくなるのが少しさびしいです。」とのこと。

その後、地元のお母さんが作ってくれた新米ごはん、だんご汁、お漬物を皆でおいしくいただきました。(引地 記)



平成29年度 若林区まちづくり協議会の行事予定

4・5月 役員会・総会	7月 第1土曜日 若林区 合唱のつどい	8~11月 若林区スポ・レク・ フェスタ	7~翌3月 「ラヂオ はいらいん若林」 放送 76.2MHz ラジオ3にて毎週土曜日 午前10時から
10月 第3日曜日 若林区民 ふるさとまつり	3月 「はいらいん若林」 vol.21発行		

※実施内容・時期については変更となる場合があります。詳しくは「市政だより」「若林区ホームページ」等でご案内いたします。